

2010年5月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社インテリックス

「リノベーション(再生)という マンションの新しい選択」



かえる。くらし。すまい。
リノベーション住宅推進協議会

Intelex

1. 2010年5月期 第2四半期 決算概要

- 1-1 第2四半期決算ハイライト
- 1-2 四半期連結損益の概況
- 1-3 連結貸借対照表ハイライト

2. 2010年5月期 重点方針の進捗状況

- 2-1 総資産及び自己資本比率の状況
- 2-2 長期滞留物件の削減状況
- 2-3 棚卸評価損の状況
- 2-4 事業期間の短縮状況
- 2-5 固定費の圧縮による収益体質の強化
- 2-6 2010年5月期 下期の取り組み

3. 2010年5月期 連結業績見通し

- 3-1 2010年5月期 修正連結業績予想
- 3-2 2010年5月期 修正連結業績予想の内訳

4. 市場動向と今後の展望

- 4-1 中古マンション市場の動向①(前年比)
- 4-2 中古マンション市場の動向②(過去3年)
- 4-3 マンション市場の中期展望

5. コーポレート・データ 【参考資料】

- 5-1 セグメント別売上高
- 5-2 セグメント別売上総利益
- 5-3 物件販売の状況①
- 5-4 物件販売の状況②
- 5-5 物件仕入の状況
- 5-6 安定した需要の中古マンション市場
- 5-7 当社販売実績と新築マンション供給戸数との比較
- 5-8 リノベーション住宅推進協議会への積極参加
- 5-9 株式の状況
- 5-10 会社概要及び沿革

1. 2010年5月期 第2四半期 決算概要



■ 物件販売の粗利益率が回復し、固定費を圧縮したことで、黒字に大きく転換

2010年5月期 2Q累計 (2009.6~2009.11)

(単位:百万円)

	前2Q	当2Q	前2Q差
売上高	19,953	13,918	△ 6,034
営業利益	△ 182	785	+967
経常利益	△ 617	523	+1,141
四半期純利益	△ 765	653	+1,418
	前期末	当2Q末	前期末差
総資産	23,188	20,091	△ 3,096
たな卸資産	15,905	13,816	△ 2,089
自己資本比率	14.0%	19.4%	+5.4ポイント

【リノヴェックスマンションの販売実績(累計)】

販売件数: 558件 (前2Q比: △133件)

平均単価: 21.8百万円 (前2Q比: △5.5百万円)

【損益ダイジェスト】

- リノヴェックスマンション販売が堅調
 - ・前期の仕入調整により、前2Q比で販売件数減少だが、計画数(500件)を上回り推移
 - ・2,000万円台前半の実需層は安定した取引
- 厳選仕入により粗利益率が向上、棚卸評価損を1億8百万円計上<参:前2Q:6億84百万円>
- 固定費の削減により、損益分岐点押し下げ
- ◎ 収益構造の大きな改善により、黒字に転換

【貸借対照表ダイジェスト】

- 事業期間の短縮化で引き続き総資産が圧縮
- 総資産の減少、黒字化により、自己資本比率19.4%に向上(前期末比: +5.4ポイント)

(単位:百万円)

	2010年5月期 1Q		2010年5月期 2Q		2010年5月期 2Q累計				前期 2Q累計	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	前年同期比	前年同期差	金額	売上比
売上高	7,410	100.0%	6,508	100.0%	13,918	100.0%	△ 30.2%	△ 6,034	19,953	100.0%
売上総利益	976	13.2%	1,016	15.6%	1,992	14.3%	+42.6%	+595	1,397	7.0%
営業利益	367	5.0%	417	6.4%	785	5.6%	—	+967	△ 182	—
経常利益	223	3.0%	300	4.6%	523	3.8%	—	+1,141	△ 617	—
当期純利益	204	2.8%	448	6.9%	653	4.7%	—	+1,418	△ 765	—

- 売上高:前2Q比で30.2%減。売上総利益:42.6%増と大幅に伸長。
- 好条件な物件へと在庫入れ替えが促進され、売上総利益率が、1Q⇒2Qで向上
- 営業外費用の削減により、経常利益率も向上 (参考)有利子負債コスト:前2Q比34.3%減

【ご参考】セグメント情報は、後述「5-1 セグメント別売上高」「5-2 セグメント別売上総利益」をご参照ください。

■ 事業期間の短縮化による、たな卸資産の減少により、B/Sが更にスリム化

(単位:百万円)

	2009年5月期 期末		2010年5月期 2Q末		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
たな卸資産	15,905	68.6%	13,816	68.8%	△ 2,089	△ 13.1%
その他流動資産	1,500	6.5%	1,117	5.6%	△ 382	△ 25.5%
流動資産	17,405	75.1%	14,933	74.3%	△ 2,471	△ 14.2%
固定資産	5,783	24.9%	5,158	25.7%	△ 624	△ 10.8%
【資産合計】	23,188	100.0%	20,091	100.0%	△ 3,096	△ 13.4%
流動負債	14,003	60.4%	12,484	62.1%	△ 1,519	△ 10.9%
固定負債	5,943	25.6%	3,700	18.4%	△ 2,243	△ 37.7%
【負債合計】	19,947	86.0%	16,184	80.6%	△ 3,762	△ 18.9%
【純資産合計】	3,241	14.0%	3,907	19.4%	666	+20.6%
【負債及び純資産合計】	23,188	100.0%	20,091	100.0%	△ 3,096	△ 13.4%

◆ 堅調な販売により、在庫削減

【たな卸資産の内、商品物件内訳】

通常物件	55億円 (△10億円)
	318件 (△10件)
賃貸物件	80億円 (△12億円)
	258件 (△11件)

◆ 長期保有収益物件(オフィスビル等)

・保有高: 43億円、6件
(本社売却で△5億円)

◆ たな卸資産の減少により、有利子負債残高が減少

・有利子負債残高: 147億円
(前期末比: △34億円、△18.8%)

◆ 自己資本比率が向上

・前期末: 14.0% ⇒ 2Q: 19.4%

2. 2010年5月期 重点方針の進捗状況



■ 事業期間の更なる短縮化により、総資産が引き続き圧縮

総資産及び自己資本比率

- 事業期間の短縮化により、たな卸資産が縮小
- 総資産圧縮と収益性回復により自己資本比率向上

【前々期1Q (2007.8)】

〔総資産の圧縮をスタート〕

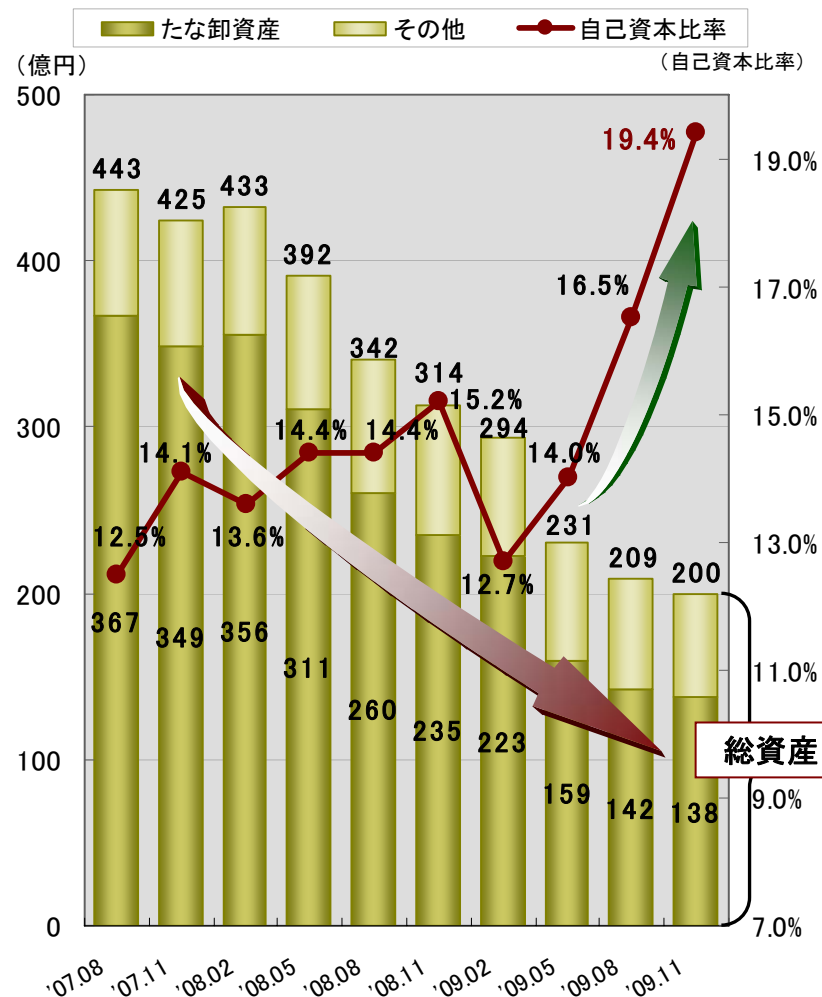
- ・総資産： 443億円
- ・たな卸資産： 367億円
- ・有利子負債： 367億円
- ・自己資本比率： 12.5%

【当期2Q (2009.11)】

- ・総資産： 200億円
- ・たな卸資産： 138億円
- ・有利子負債： 147億円
- ・自己資本比率： 19.4%

◎総資産の圧縮スタート(2007.8)から2年3ヶ月で、

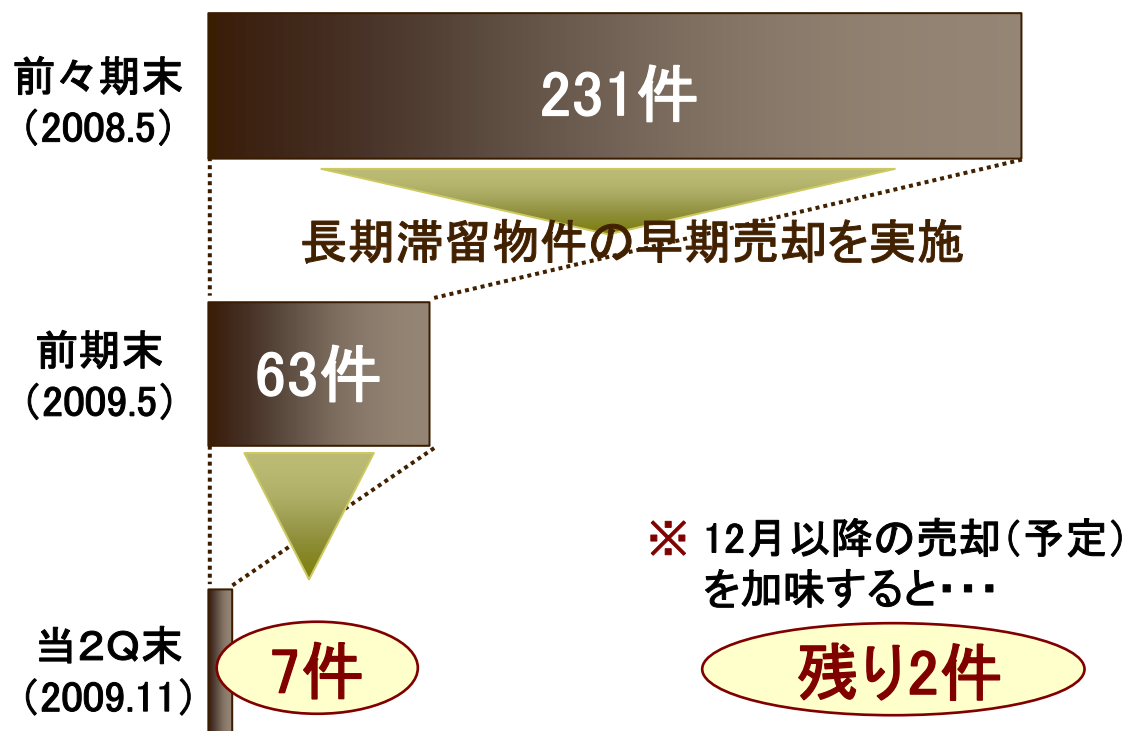
- ・総資産▲243億円、有利子負債▲220億円 圧縮
(▲54.7%) (▲59.8%)
- ・自己資本比率は 19.4%に向上し、6.9ポイント改善



■ 底堅い需要を反映して売却が促進され、**長期滞留物件を一掃！**

* 当社では、保有期間**180日超過**した物件を「**長期滞留物件**」と定義

長期滞留在庫の推移



【長期滞留物件の削減要因】

- 保有物件の早期売却に注力
- 2,000万円前半の実需売れ筋ゾーンに絞り込み仕入れ
- 滞留在庫発生 of 未然防止管理

↓

- ・前々期末(2008.5): 残高231件
- ・前期末 (2009.5): 残高 63件
- ・当2Q末 (2009.11): 残高 **7件**

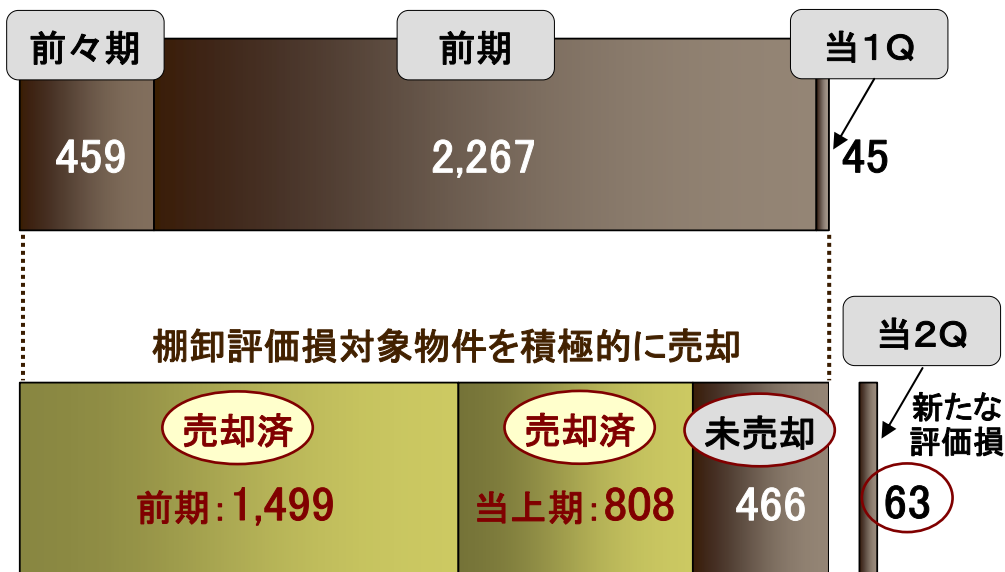
※売却予定を加味すると、残り**2件**

■ 長期滞留物件の売却一掃により、多額の棚卸評価損の計上は終息！

棚卸評価損の推移

当2Q末現在 (2009.11)

(単位:百万円)



■ 棚卸評価損の当1Qまでの累計額

- ・前々期: 459百万円
 - ・前期: 2,267百万円
 - ・当1Q: 45百万円
- 累計計上額: 2,772百万円

■ 売却が実現した物件の棚卸評価損

- ・前期: 1,499百万円
 - ・当上期: 808百万円
- 2,307百万円分を売却

■ 当2Q末で、466百万円が未売却

- 当2Qに、棚卸評価損63百万円を計上

※12月以降の売却(予定)を加味すると…
未売却の棚卸評価損残高: 343百万円

- 継続的な努力により事業期間の短縮化が加速 ⇒ 事業期間120日以内の厳守



リノヴェックスマンションの事業期間の推移

(保有期間180日超過の長期滞留物件を除く)

2008.5月期
下期

120日

2009.5月期
上期

115日

2009.5月期
下期

104日

2010.5月期
上期

94日

⇒ ◎短期事業サイクルの強みをさらに発揮する

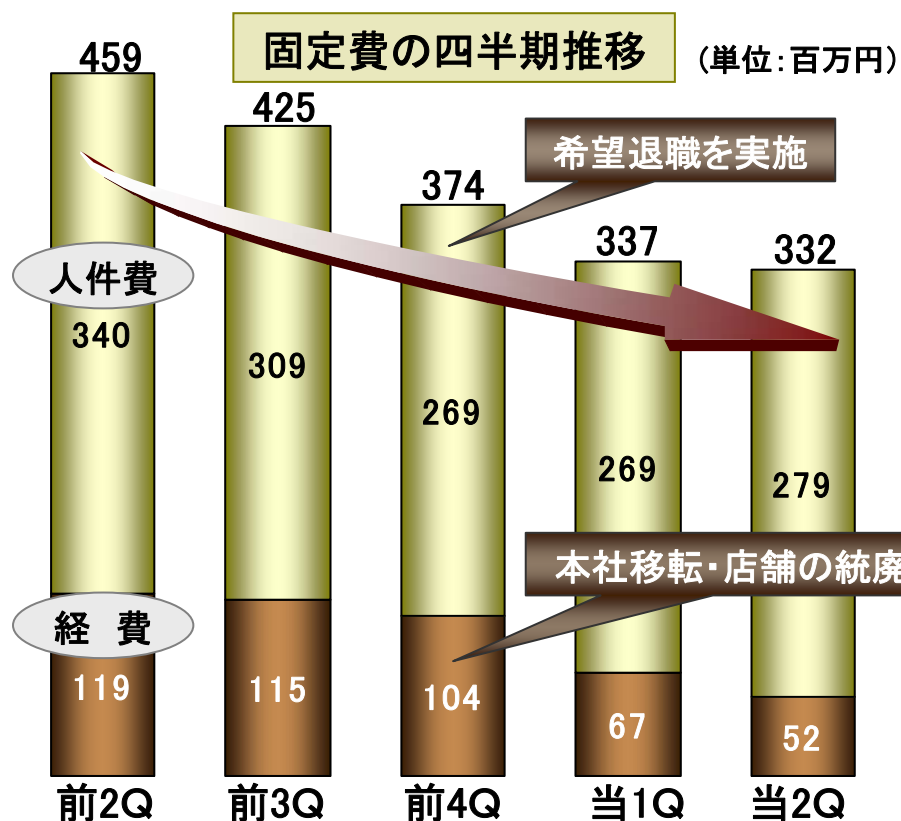
- 事業期間120日以内を堅持し、グループ全体で短縮化を推進
- 商品化期間：
 - ・引き続き45日以内で商品化
- 販売期間：
 - ・期間管理、利益管理の継続徹底
 - ・滞留物件の未然防止対応

■ 前期の経営合理化策の実施により、固定費を抜本的に圧縮

【前期に実施した主な経営合理化策】

- 本社の移転、店舗の統廃合
- 希望退職による人員削減の実施

- 固定費の抜本的な削減効果が、今期の期初から収益に寄与



- ◎ 損益分岐点の押し下げ
- ◎ スリム経営により、収益構造が転換

当2Qの人件費
⇒前2Q比 17.7%減

当2Qの経費
⇒前2Q比 55.9%減

当2Qの一般管理費計
⇒前2Q比 27.7%減

■ 期初に掲げた「2010年5月期重点方針」を、継続して着実に実践

I 仕入体制の強化

II 事業期間の継続的な短縮

III グループ連携事業の積極展開

IV リノベーション住宅推進協議会への積極参加

リノベーション市場のリーディングカンパニーとして、
責任と誇りを持って、次なる成長を目指す！

3. 2010年5月期 連結業績見通し



■ 物件販売の底堅さ、固定費圧縮により、収益構造が転換 ⇒ **成長軌道に復帰へ!**

(単位: 百万円)

	2008年5月期 (実績)		2009年5月期 (実績)			2010年5月期 通期予想			
	金額	売上比	金額	売上比	前期比	金額	売上比	前期比	前回予想比
売上高	47,448	100.0%	37,880	100.0%	△ 20.2%	28,105	100.0%	△ 25.8%	+21.4%
営業利益	2,117	4.5%	△ 1,122	△ 3.0%	—	1,682	6.0%	—	+29.9%
経常利益	984	2.1%	△ 1,926	△ 5.1%	—	1,081	3.8%	—	+77.6%
当期純利益	545	1.1%	△ 2,309	△ 6.1%	—	1,043	3.7%	—	+40.7%
1株当たり 当期純利益(円)	8,901.24	—	△ 37,553.36	—	—	16,970.85	—	—	—
期中平均株式数	61,312	—	61,500	—	—	61,500	—	—	—

【修正配当予想】

第2四半期末	期末	年間	連結配当性向
1,000円	1,500円	2,500円	14.7%

- 前期までの仕入調整により減収となる一方、物件の利益率向上、固定費削減で収益性が大幅改善
- 底堅い物件販売により安定した利益水準を確保し、**従来の成長軌道への復帰を目指す**

■ 売上区分別の内訳見込

(単位:百万円)

売上区分	2009年5月期		2010年5月期 (修正予想)		
	金額	構成比	金額	構成比	前期比
物件販売	36,283	95.8%	26,413	94.0%	△ 27.2%
賃貸収入	1,222	3.2%	1,024	3.6%	△ 16.2%
その他収入	374	1.0%	667	2.4%	+78.4%
売上高	37,880	100.0%	28,105	100.0%	△ 25.8%

■ リノヴェックスマンションの 販売見込 (通期)

【販売件数】 **1,128件**

(前期比: △272件、△19.4%)

【販売単価】 **22.3百万円**

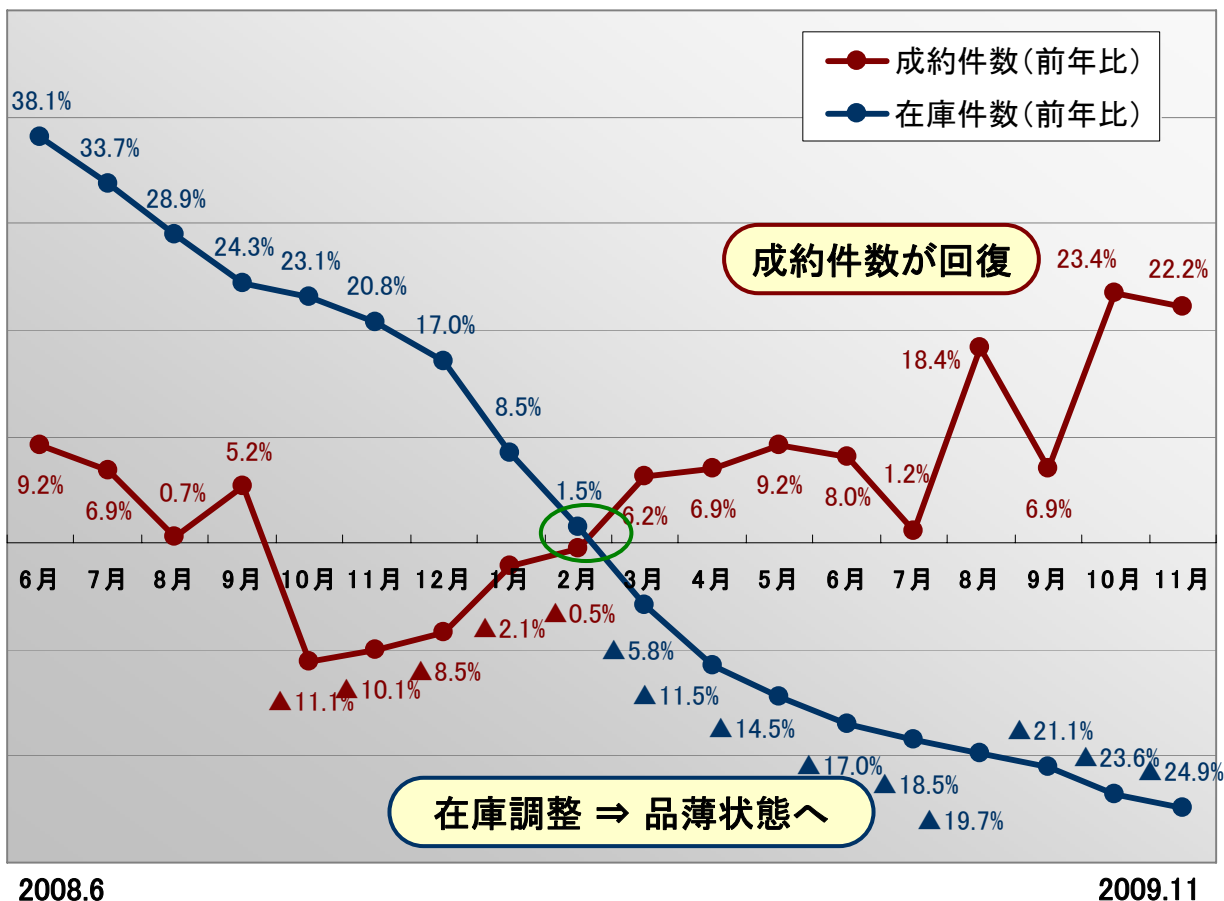
(前期比: △2百万円、△9.7%)

- 物件販売:** ・リノヴェックスマンション販売: 251億円
 ・その他不動産販売 : 12億円
- 賃貸収入:** ・一定水準の物件保有により、安定した賃貸収入を継続確保
- その他収入:** ・仲介事業に加え、リノヴェックス内装事業を一般ユーザー、他業社向けに拡充

4. 市場動向と今後の展望



■首都圏の中古マンション成約件数及び在庫件数の推移① （前年比での増減率トレンド 2008.6-2009.11）



- 成約件数は、前年比較で2008年10月を底に回復。
・3月以降、9ヶ月連続で前年上回る
- 在庫件数は、価格下落に連動し、在庫調整が進展。
・3月以降、9ヶ月連続で前年下回る
⇒在庫調整から品薄状態へ

市場の底打ちから、安定した成長へ

2008.6

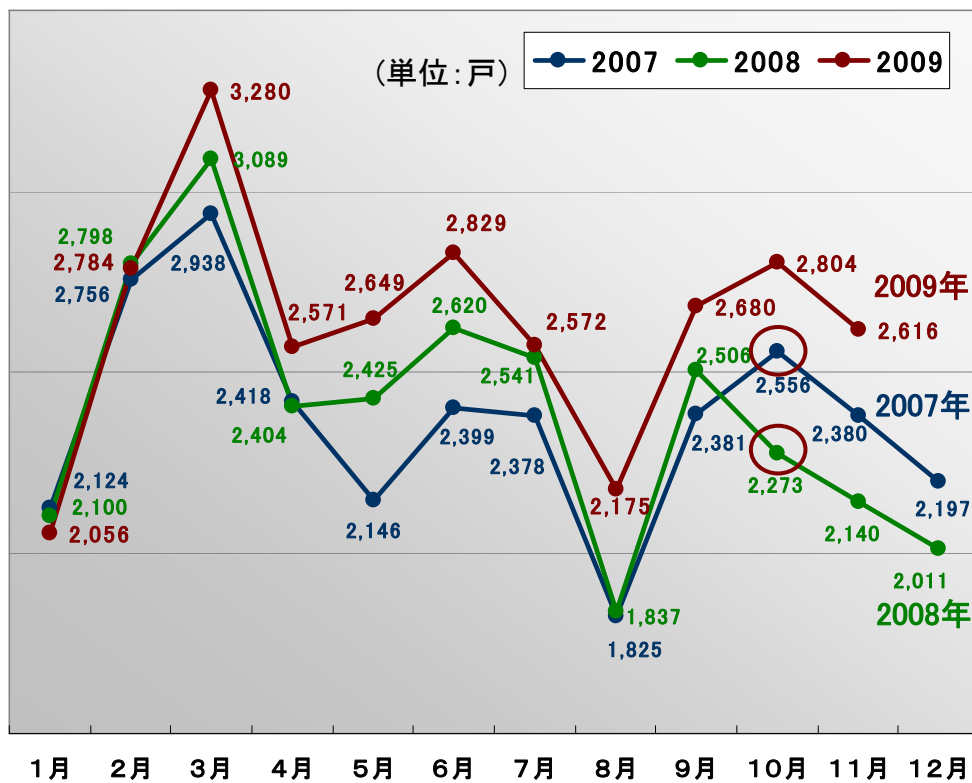
2009.11

※(財)東日本不動産流通機構(東日本レインズ)のデータを基に当社が作成

■首都圏の中古マンション成約件数及び在庫件数の推移② （過去3カ年の同月実数トレンド 2007.1-2009.11）

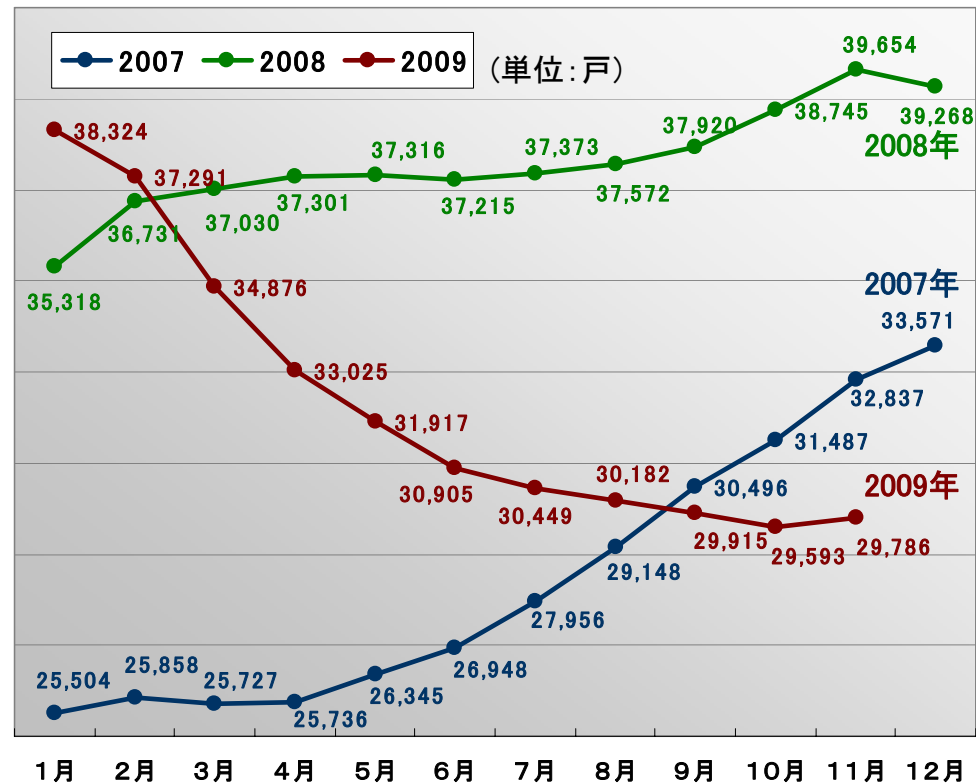
【成約件数】

◎ 2009年は、過去2年を上回る水準で推移



【在庫件数】

◎ 2009年は、急激な在庫調整が進展



※(財)東日本不動産流通機構(東日本レインズ)のデータを基に当社が作成

■ 中期的にマンションの需給構造は、大きな転換期を迎えると想定

供給サイド

- 不動産業への保守的な融資姿勢



- 新興の新築ディベロッパーの供給戸数が、特に激減へ



- 新築の代替市場として、リノベーション市場が物件を供給

需要サイド

- 中古市場の従来通りの安定した需要
プラス

- 一次取得者の流入

【賃貸から所有へ】

「賃料」>「ローン」の逆転現象

〔購入を後押しする背景〕

- ・物件価格の下落
- ・住宅ローン減税
- ・低金利政策の維持
- ・住宅取得資金の贈与税非課税枠拡大

- リノベーション物件の選択が増加

中期的にリノベーション市場は活性化し、「黎明」から「成長」ステージへ

5. コーポレート・データ 【参考資料】

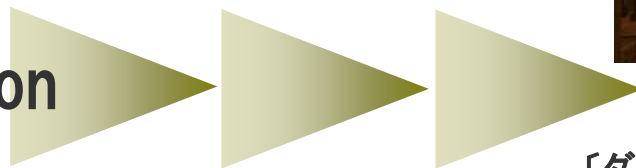
Before



After



Renovation



〔ダブルインフィル工法施工例〕

(単位:百万円)

セグメント	売上区分	2009年5月期 2Q累計		2010年5月期 2Q累計		前年同期比	
		金額	構成比	金額	構成比	増減金額	増減率
中古マンション 再生流通事業 (リノヴェックス マンション事業)	物件販売	18,922	94.8%	12,177	87.5%	△ 6,745	△ 35.6%
	賃貸収入	213	1.1%	221	1.6%	7	+3.6%
	その他収入	40	0.2%	12	0.1%	△ 28	△ 69.5%
	小計	19,177	96.1%	12,411	89.2%	△ 6,765	△ 35.3%
その他不動産 事業	物件販売	245	1.2%	997	7.2%	752	+306.8%
	賃貸収入	397	2.0%	316	2.3%	△ 80	△ 20.2%
	その他収入	133	0.7%	193	1.4%	59	+44.4%
	小計	776	3.9%	1,507	10.8%	731	+94.2%
合計	物件販売	19,167	96.1%	13,174	94.7%	△ 5,993	△ 31.3%
	賃貸収入	610	3.1%	538	3.9%	△ 72	△ 11.9%
	その他収入	174	0.9%	205	1.5%	31	+17.8%
	合計	19,953	100.0%	13,918	100.0%	△ 6,034	△ 30.2%

※その他不動産事業: ビル、戸建、土地等にかかる事業

※その他収入: 主に子会社インテリックス住宅販売による不動産仲介手数料の売上、
インテリックス空間設計による一般ユーザー向けリノヴェックス内装事業

(単位:百万円)

セグメント	区分	2009年5月期 2Q累計		2010年5月期 2Q累計		前年同期比	
		金額	粗利益率	金額	粗利益率	増減金額	増減率
中古マンション 再生流通事業 (リノヴェックス マンション事業)	物件販売	960	5.1%	1,530	12.6%	570	+59.4%
	賃貸収入	162	76.0%	170	77.3%	8	+5.3%
	その他収入	40	100.0%	12	100.0%	△ 28	△ 69.5%
	小計	1,163	6.1%	1,714	13.8%	550	+47.3%
その他不動産 事業	物件販売	△ 65	△ 26.7%	49	4.9%	114	—
	賃貸収入	264	66.6%	207	65.5%	△ 56	△ 21.5%
	その他収入	34	26.0%	21	11.3%	△ 12	△ 37.3%
	小計	233	30.1%	278	18.5%	44	+19.1%
合計	物件販売	894	4.7%	1,579	12.0%	685	+76.6%
	賃貸収入	426	69.9%	378	70.3%	△ 48	△ 11.3%
	その他収入	75	43.2%	34	16.6%	△ 41	△ 54.7%
	合計	1,397	7.0%	1,992	14.3%	595	+42.6%

※その他不動産事業: ビル、戸建、土地等にかかる事業

※その他収入: 主に子会社インテリックス住宅販売による不動産仲介手数料の売上、
インテリックス空間設計による一般ユーザー向けリノヴェックス内装事業

当第2四半期累計の販売件数

※その他不動産：ビル、戸建、土地等

	2009年5月期2Q	2010年5月期2Q	前2Q比	(参)2010年5月期 通期 予想数値
リノヴェックスマンション	691	558	△ 19.2%	1,128
その他不動産	6	8	+ 33.3%	11
総 合 計 (件)	697	566	△ 18.8%	1,139

リノヴェックスマンション販売の概要 (第2四半期累計)

	2009年5月期2Q	2010年5月期2Q	前2Q比	(参)2010年5月期 通期 予想数値
販売物件 平均築年数(年)	19.9	19.7	△0.2年	—
販売物件 平均面積(m ²)	64.4	62.6	△1.8m ²	—
平均販売価格(千円)	27,384	21,823	△ 20.3%	22,300

リノヴェックスマンションのエリア別販売動向分析

エリア区分	2009年5月期 2Q累計			2010年5月期 2Q累計			
	販売件数	エリアシェア	平均単価	販売件数	前2Q比	エリアシェア	平均単価
東京都23区	295	42.7%	34百万円	212	△ 28.1%	38.0%	25百万円
東京都下	63	9.1%	22百万円	51	△ 19.0%	9.1%	21百万円
神奈川県	210	30.4%	22百万円	188	△ 10.5%	33.7%	21百万円
埼玉県	85	12.3%	20百万円	70	△ 17.6%	12.5%	16百万円
千葉県・他	38	5.5%	20百万円	37	△ 2.6%	6.6%	16百万円
合計	691	100.0%	27百万円	558	△ 19.2%	100.0%	21百万円

当第2四半期累計の仕入概要

※その他不動産：ビル、戸建、土地等

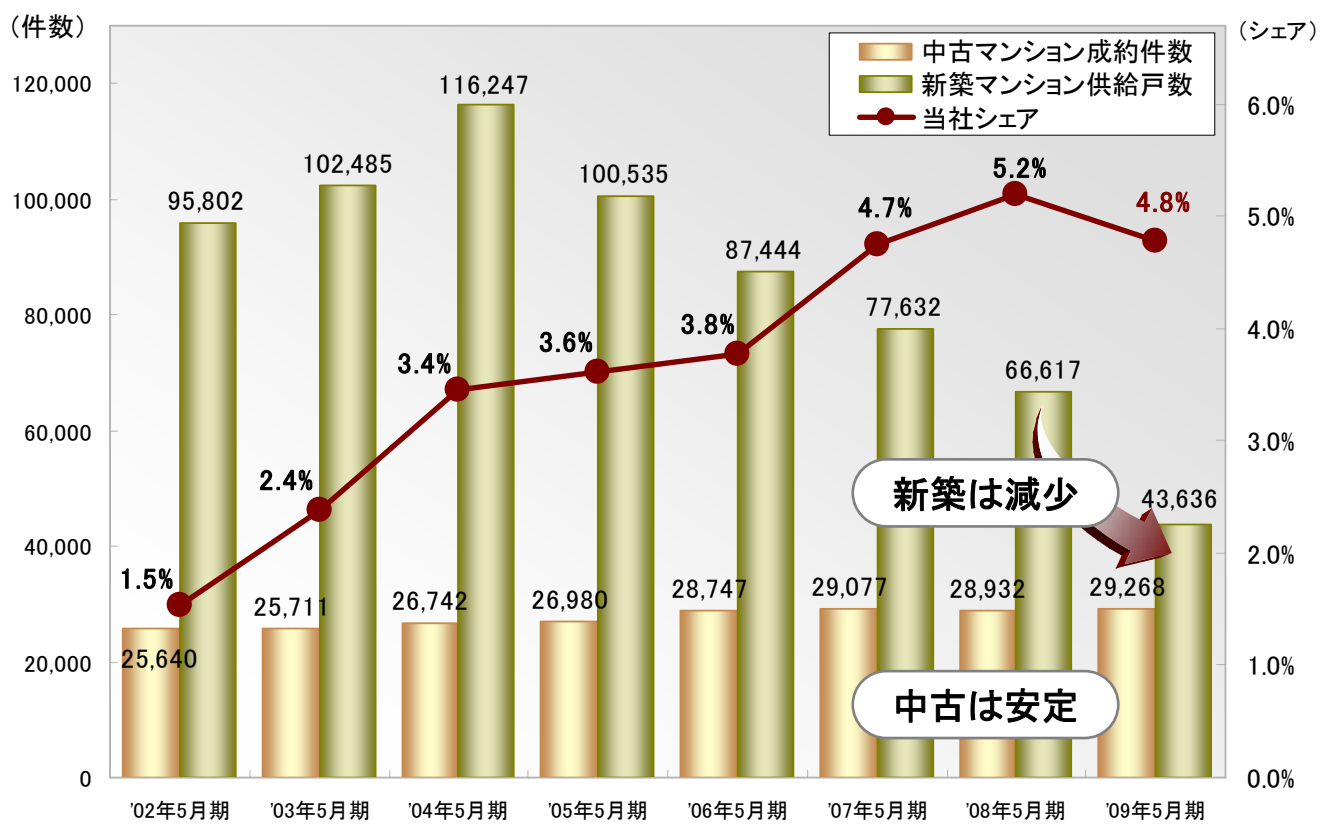
セグメント	2009年5月期 2Q累計		2010年5月期 2Q累計			
	件数	金額	件数	前2Q比	金額	前2Q比
リノヴェックスマンション	528	80億円	544	+3.0%	75億円	△ 5.3%
その他不動産	5	3億円	1	△ 80.0%	0.04億円	△ 98.5%
合計	533	83億円	545	+2.3%	75億円	△ 8.7%

リノヴェックスマンションのエリア別仕入状況（第2四半期累計）

エリア区分	2009年5月期 2Q累計			2010年5月期 2Q累計			
	仕入件数	エリアシェア	平均単価	仕入件数	前1Q比	エリアシェア	平均単価
東京都23区	161	30.5%	17百万円	135	△ 16.1%	24.8%	16百万円
東京都下	54	10.2%	16百万円	48	△ 11.1%	8.8%	13百万円
神奈川県	207	39.2%	13百万円	217	+4.8%	39.9%	14百万円
埼玉県	72	13.6%	13百万円	51	△ 29.2%	9.4%	13百万円
千葉県・他	34	6.4%	12百万円	93	+173.5%	17.1%	8百万円
合計	528	100.0%	15百万円	544	+3.0%	100.0%	13百万円

■中古マンション市場における当社の販売シェア試算

(首都圏の中古マンション成約件数、新築マンション供給戸数との関係)

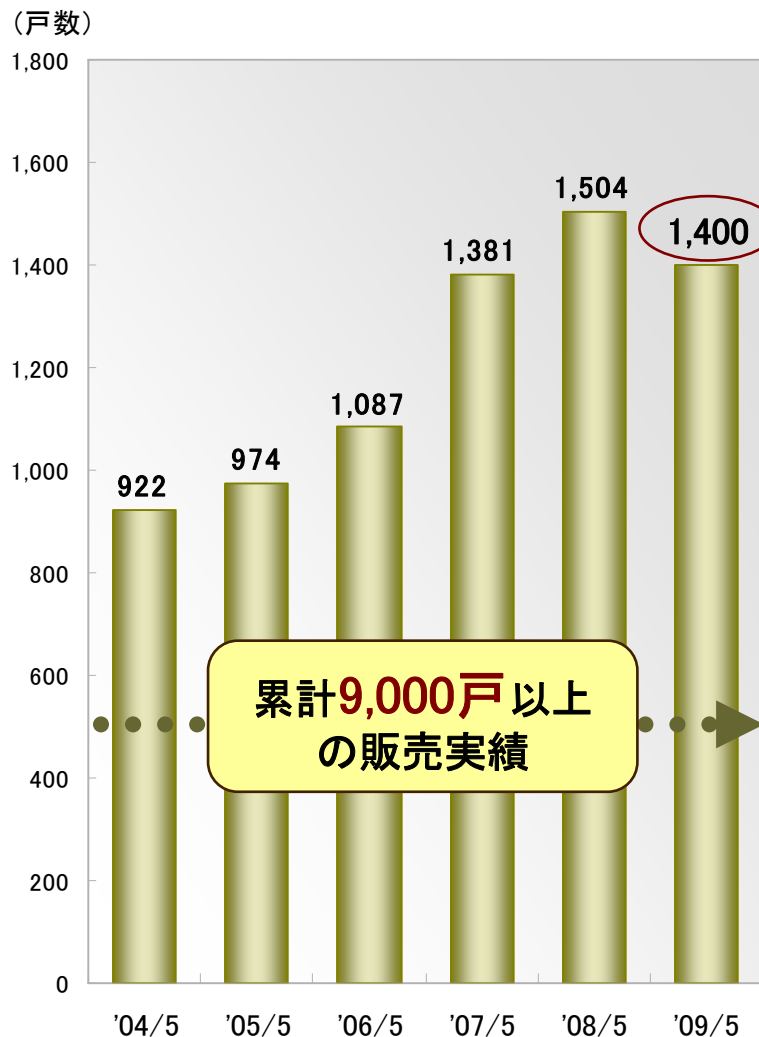


- 新築の供給は、景気動向に左右されやすい傾向
 - 中古マンション市場は、安定したマーケットを形成
 - 当社の市場シェアは、5%前後を確保
- $$\text{当社シェア} = \frac{\text{当社リノヴェックスマンション販売件数}}{\text{首都圏の中古マンション成約件数}}$$

- 新築市場は、市況悪化で、供給・在庫数は減少傾向
- リノベーションマンションの注目度が高まる方向へ

※(財)東日本不動産流通機構(東日本レインズ)のデータ及び(株)東京カンテイのデータを基に当社が作成
 ※新築マンション供給戸数は、暦年にて集計、中古マンション成約件数は、当社決算期(6-5月)にて集計

■ 当社リノヴェックスマンション 販売実績の推移 (事業年度別)



仮に、首都圏の新築
マンションの供給戸数
ランキングと
比較した場合…

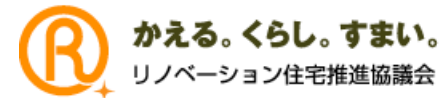
当社2009.5期の
販売実績1,400戸
7位に相当

■ 2008年首都圏新築マンション事業者別 供給戸数ランキング

順位	社名	供給戸数
1	三井不動産レジデンシャル	3,106
2	大京	2,071
3	野村不動産	1,956
4	藤和不動産	1,946
5	住友不動産	1,648
6	ゴールドクレスト	1,503
7	コスモスイニシア	1,330
8	三菱地所	1,090
9	日神不動産	905
10	日本総合地所	836
11	ナイス	806
12	東京建物	796
13	東急不動産	773
14	扶桑レクセル	756
15	新日本建物	732
16	タカラレーベン	711
17	オリックス不動産	690
18	リスト	633
19	大和ハウス工業	626
20	総合地所	584

出所：不動産経済研究所のデータを基に当社作成

■ 日本初のリノベーション業界団体として、 一般社団法人「リノベーション住宅推進協議会」が2009.7に発足



既存住宅の流通市場の活性化に向けて、
リノベーション(再生)の品質基準を定め、
優良なリノベーション住宅の普及浸透を推進

【主な業務内容】

リノベーションに関する・・・

- ・技術水準や品質の向上
- ・普及・広報活動
- ・情報の収集及び提供
- ・関係団体等に対する協力、要望、及び提言

【当社の役割】

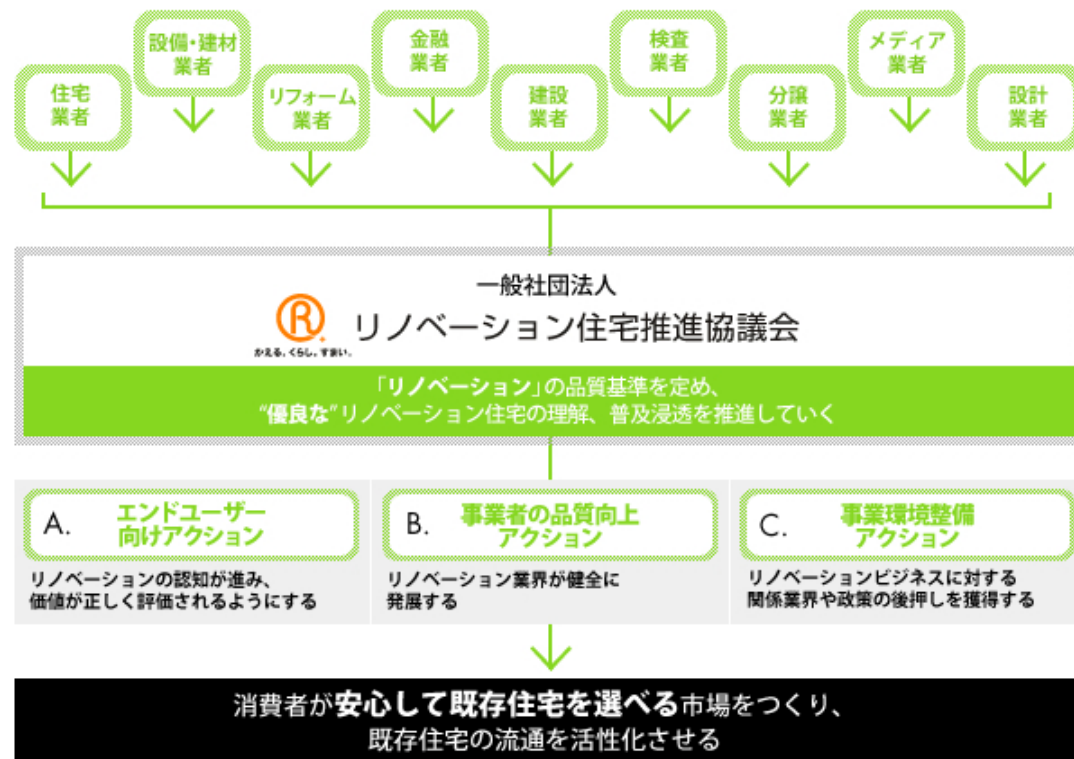
- ・協議会の初代会長として、当社社長が就任



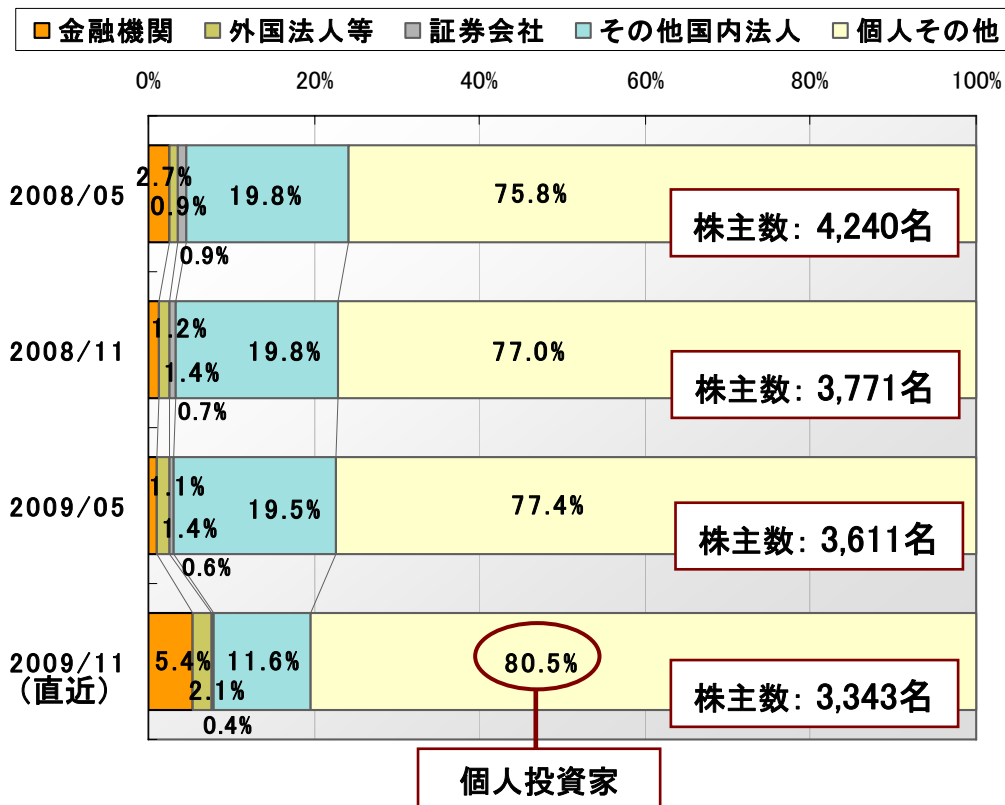
入会説明会の様子

- ◎ 業界・業種の枠を超え、会員109社でスタート
⇒順調に会員数を伸ばし、**現在207社**に (2009.12末現在)

リノベーション住宅推進協議会の概要



【株主構成(所有株数別)の推移】



- 前期末(2009.5)より株主数268人減少
- 金融機関(機関投資家etc.)は、4.3ポイント増

【大株主の状況】

(2009.11.30現在)

■ 発行済株式数: 61,500株

■ 株主数: 3,343人(前期末比△268人)

大株主名	所有株数 (株)	議決権比率 (%)
山本 卓也	29,404	47.8
株式会社イーアライアンス	5,200	8.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,268	3.7
インテリックス従業員持株会	2,013	3.3
山本 貴美子	1,330	2.2
北沢産業株式会社	714	1.2
FGCS N.V.RE TREATY ACCOUNT (TAXABLE)	666	1.1
HSBC BANK PLC - CLIENTS UK TAX TREATY	479	0.8
日本証券金融株式会社	476	0.8
澤田 久美子	400	0.7
家本 健	400	0.7

【会社概要】

(2009年11月30日現在)

社名	株式会社インテリックス
設立	1995年(平成7年)7月17日
代表者	代表取締役社長 山本 卓也
資本金	11億3,615万円
発行済株式数	61,500株
上場市場	東京証券取引所市場第二部
証券コード	8940
決算日	5月31日
ホームページ	http://www.intellex.co.jp
従業員数	連結184名、単体118名

【沿革】

年月	事項
平成7年 7月	東京都世田谷区に内装工事を目的として資本金1,000万円で株式会社プレステージを設立
平成8年 2月	宅地建物取引業者として東京都知事免許を取得(登録(1)第73719号)中古マンション再生流通事業(リノヴェックスマンション事業)を開始
平成8年 7月	商号を株式会社インテリックスに変更
平成10年 2月	株式会社インテリックス空間設計(現・連結子会社)を設立
平成12年 7月	取扱物件の情報管理のための「総合管理システム」を完成、導入
平成13年 7月	株式会社エムコーポレーション(現・株式会社インテリックス住宅販売、連結子会社)の全株式を取得
平成15年 2月	横浜市西区に横浜支店を設置
平成15年 2月	宅地建物取引業者として国土交通大臣免許を取得(登録(1)第6392号)
平成15年 6月	当社グループの株式会社セントラルプラザを吸収合併
平成16年 9月	不動産鑑定業者として東京都知事登録(登録(1)第1934号)
平成17年 4月	JASDAQ証券取引所に上場(証券コード:8940)
平成19年 5月	東京証券取引所市場第二部に上場
平成19年 12月	JASDAQ証券取引所における株式を上場廃止

IRに関するお問い合わせは、
経営企画部 IR室 阿部 まで御願ひ致します。
TEL: 03-5459-3901 E-Mail: ir@intellex.co.jp

<http://www.intellex.co.jp/>

当資料に記載された内容は、2010年1月現在において一般的に認識されている経済・社会などの情勢および当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであります。

これらの記述は、経営環境の変化などの事由により、予告なしに変更される可能性があります。従いまして、当社の業績などの予測を立てられる際に、当資料に全面的に依拠されることはお控えくださいますようお願い致します。投資に関する最終的なご判断は、ご自身がなされるようお願い申し上げます。